

第1号議案 平成22年度事業報告について

平成22年度は、救護施設真和館にとって、設立5年目の大事な区切りの年でありました。「3年で一人前の施設運営」というスローガンのもと、施設運営の基盤づくりに力を入れて来ましたが、5年が過ぎ、やっと、設立時に目標としていた一人前の施設運営ができるようになった感じがしています。

特に、この1年間で最も進歩したのは、①職員にやる気が出てきたこと、②介護の質が格段に良くなり、③美味しい食事が提供できるようになり、入所者のみなさんが満足されていること、④服薬管理体制や食事の見守り体制が確立し、事故が起こらなくなったこと、⑤地域での理解が進み温かく見守っていただけるようになるとともに、真和館の取り組みが次第に関係者に知られるようになって来たことであります。

たとえば、精神障害の方、特に病意識のない方に「薬」を継続的に飲んで頂くことは、大変大事なことでありますが、大変難しいことでもあります。その取り組みについて、10月27～28日沖縄で開催された「第35回全国救護施設研究協議(沖縄)大会」で九州の代表として、「服薬管理体制の確立」と題して、真和館の服薬管理について発表ができました。また、同じ内容のものを11月18日鹿児島市で開催された財団法人日本科学技術連盟 QC サークル九州支部中部地区 QC 大会で、工業関係の企業に混じり発表させていただきました。

さらに、アルコール依存症の取り組みにも成果を上げ、ここ2年間ほどは、年間を通し飲酒される方は、2～3人(平成22年度は1人)という落ち着いた状況になりました。そこで、その取り組み状況について、12月4日熊本市で開催された「熊本県アルコール関連学会」で発表をさせていただきました。

一方、ハード面は、新しい施設であり一人部屋と実質一人部屋に近い二人部屋であり、比較的プライバシーも保たれており、集会室、談話室、4つに分かれた食堂、その上に十分な広さと数のトイレ等入所者のみなさんの生活環境は、比較的恵まれた状況にあります。

さらに、今回の東館の増築で、増築部分の2階に学習室及び図書室が出来上がり、入所者サービスに関わるハード面の整備は、当面一段落しました。

お蔭様でハード的には、「ゆとりある空間」となり、入所者のみなさまも「ゆっくりとした時間の流れ」の中で、とても仲良く、落ち着いた生活を送られています。

なお、今回の増築の主たる目標は、バックヤードである事務室、医務室、介護職員室、調理室、リネン庫、食品庫が狭く、職員の職場環境が、劣悪であったために計画されたものであります。

お蔭様で、主たる目的であった職員にとって働きやすい環境づくりに関しては、まだまだ、十分とは言えませんが、かなりの改善ができ、業務効率も一段と向上し、所期の目的が達成されたものと思われれます。

I 社会福祉法人致知会事業報告

1 理事会の開催状況

(第1回理事会)

日時 5月29日(土) 16:00~17:50
場所 料亭「はらぐち」水前寺
出席者 理事10名中8名出席 2名書面議決書 監事1名 顧問1名
議案 第1号議案 平成21年度事業報告の承認について
第2号議案 平成21年度決算の承認について
第3号議案 就業規則の一部改正について
第4号議案 嘱託、臨時職員及びパートタイム就業規則の一部改正について
第5号議案 給与規則の一部改正について
第6号議案 育児・介護休業等に関する諸規定について
第7号議案 真和館の改修及び増築に伴う入札参加業者の選定について

報告事項 (1)真和館中期研修計画について
(2)人件費積立金の積立計画について
(3)内部監査の体制整備について

(第2回理事会)

日時 10月16日(土) 11:00~11:30
場所 真和館2階食堂
出席者 理事10名中7名出席 3名書面議決書 監事1名 顧問1名
議案 第1号議案 平成22年度第1次補正予算について
第2号議案 給与規則の一部改正について

(第3回理事会)

日時 3月19日(土) 10:25~11:50
場所 真和館東館 図書室
出席者 理事10名中5名出席 5名書面議決書 監事2名 顧問2名
議案 第1号議案 平成22年度第2次補正予算(案)について
第2号議案 平成23年度事業計画(案)について
第3号議案 平成23年度収支予算(案)について
第4号議案 給与規則の一部改正について

2 監査の状況

(監事監査)

日時 5月21日(金) 10時30~12:00
場所 真和館面談室
監査者 監事 川村隼秋 監事 塘林恭介
監査結果 指摘事項なし

(第1回内部監査)

日時 9月8日(水) 11:00~12:00
場所 真和館面談室
監査者 理事 西澤寿芳
監査結果 指摘事項なし

(第2回内部監査)

日時 1月19日(水) 11:00~12:00
場所 真和館面談室
監査者 理事 西澤寿芳
監査結果 指摘事項なし

II 救護施設真和館事業報告

真和館は施設開設から5年が経過しました。この間、日本経済の停滞のために、入所者は常に定員をオーバーした状況であり、特に、平成23年度は入所希望者を次から次にお断りしなければならず、大変心苦しい思いを致しました。

退所の状況については、この1年間13名の方が退所され、その内訳は地域でのアパート生活が1名、専門施設への移行が2名、残りは、精神病院入院が2名、他の病院入院が5名、死亡が2名、1名が放浪の旅に出られました。

病院入院の7名、死亡の2名という数字から分るように、入所者の重度化がかなりのスピードで進んでいる状況が、見て取れます。

このような状況に対応するために、平成21年度に1名看護師を増員し2名体制とし、平成22年7月からは、さらに、看護師を1名増員し3名の体制としました。また、真和館は入所者の9割の方が、精神障害をお持ちのため、平成22年4月から精神保健福祉士の資格取得者を新たに1名採用致しました。

1) 障害区分状況

平成23年4月1日

	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害		生活障害	合計	内アルコール依存症
				身体障害と精神障害	知的障害と精神障害			
男	6(1)	7	36(7)	2	6	3	44	(22)
女	1	0	11(7)	1	0	0	11	(3)
計	7(1)	7	47(14)	3	6	3	55	(25)

※ 身体(3級以上)・知的・精神障害(3級以上)の数は手帳所持数者の数であり合計とは一

致しない。

※ 身体障害の()内は内部障害者の数で、精神障害者の()内は統合失調症者の数である

2) 年齢別入所者状況

平成23年4月1日

	20～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	合計
男	2	1	15	8	10	8	0	44
女	0	0	4	2	0	5	0	11
計	2	1	19	10	10	13	0	55

※男性平均年齢 61歳8ヶ月 女性平均年齢64歳6ヶ月 全体平均年齢62歳4ヶ月

3) 退所者状況1

H22.4.1～H23.3.31

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
他施設移行	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
精神科入院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
その他入院	0	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	5
死亡	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	0	4	0	0	0	1	2	3	1	0	1	1	13

4) 退所者状況2

H18.4.28～H23.3.31

	就職	地域	他施設	精神入院	他入院	死亡	その他	合計
平成18年度	0	1	1	3	2	1	3	11
平成19年度	0	3	2	3	0	1	1	10
平成20年度	0	7	3	3	1	3	2	19
平成21年度	0	1	4	4	0	4	0	13
平成22年度	0	1	2	2	5	2	1	13

1 入所者の暮らしの状況

真和館の入所者の9割は、精神障害者(知的障害者を含む)であり、身体障害だけの方が4名、障害の無い人は1名だけあります。従って、入所者の精神状況の変化を素早く捉え、的確に対処することや病識のない方に薬をもれなく、間違いなく飲んで頂くことがとても大事なことであります。

この5年間の取り組みの中で、やっと、このような取り組みもできるようになり、

入所者のみなさんにも「ゆっくりとした時間の流れ」の中で、穏やかな日々を送っていただくことができるようになりました。

また、様々な行事も定着し、安定したサービスを提供できるようにもなりました。今後はさらに、職員の介護技術や対人能力を向上させ、質の高いサービスの提供ができる体制づくりをめざして参ります。

(1) 真和館の一日の流れ

- 7:00～ 8:00 起床・着替え・洗面
- 7:30～ 8:30 朝食
- 8:40～ 8:50 ラジオ体操
- 8:50～ 9:00 断酒の誓い
- 9:00～10:00 掃除
- 10:00～10:30 ペン習字(日本習字真和館支部)
- 10:15～10:45 自彊術(健康体操)
- 11:45～12:00 嚙下体操
- 12:00～13:30 昼食
- 14:00～17:00 入浴(月・火・木・金)
- 17:30～17:45 嚙下体操
- 17:45～19:00 夕食
- 21:00～22:00 就寝準備
- 22:00～ 就寝

※ のど詰め対策として、平成22年度から昼食前・夕食前に「嚙下体操」が入りました。

(2) 真和館の一週間の流れ

- 月曜日 入浴、シーツ交換1F 東ユニット
- 火曜日 入浴、買い物(ことづけ・個別対応)、シーツ交換1F 西ユニット
- 水曜日 断酒会
- 木曜日 入浴、心みがきの読書会、シーツ交換2F 東
- 金曜日 入浴、あるこう会(山歩き)、シーツ交換2F 西
- 土曜日 合唱クラブ、歌おう会(カラオケ)
- 日曜日 合唱クラブ、ビデオ映画鑑賞

※ 平成23年度から、水曜日に「よろず相談」、入所者の方に体を動かしてもらうために「大掃除」が入りました。

(3) 真和館の一年間の流れ

- | | | |
|------|----|---------------------|
| 誕生会 | 毎月 | 1回(館内行事後、レストランで食事会) |
| 対話集会 | 毎月 | 1回(入所者の要望・苦情を直接聞く会) |
| 避難訓練 | 毎月 | 1回 |

調理訓練	毎月	1回
健康診断	年	2回(日赤健康管理センター)
入所時健康診断		入所時随時(日赤健康管理センター)
健康・栄養指導	年	2回(健康診断の数値が出た時点)
インフルエンザ予防接種	年	1回
のどじまん大会	年	2回
ボランティアとの交流	年	6回
餅つき	年	1回
初詣	年	1回(健軍神社又は阿蘇神社どちらか選択)
厄入り	年	1回(健軍神社及び阿蘇神社お参り、食事会)
還暦	年	1回(健軍神社及び阿蘇神社お参り、食事会)
旅行	年	4回(宿泊1回、キャンプ1回、日帰り2回)
芝居見学	年	4回(旅行との選択)
季節の花見学	年	2回(桜、植木市)
食事会	年	4回(旅行との選択)
心みがき講演会	年	4回
スポーツ大会	年	2回(春・秋)
バーベキュー大会	年	2回(春・秋)
大分・熊本スポーツ交流会		1回(グランドゴルフ)
意見発表会	年	1回(創立記念日)
ふれあい交流会	年	1回(地域との交流)
なかよし祭り	年	1回(年納めの演芸会)
外部行事への参加	年	2回(のぎく祭り、健康スポーツ大会)
地域清掃		数回(真和館登り口の清掃)
地域清掃(区役)		2回(真和館登り口の清掃)
施設内清掃	年	数回(2階のベランダ・室外機の清掃等)

(4) クラブ活動の状況

① ペン習字

ペン習字は平成19年10月、日本習字真和館支部として発足しました。平成23年3月末で22名の方が受講中であり、内、1名の方は併せてかな文字も受講中であります。新たに平成22年度中に2名の方がペン習字の初等師範の取得をされましたので、合計3名の方が初等師範の資格を取られたこととなります。

毎月の手本をもとに熱心に練習される方、提出日にあわせてやっと1枚仕上げる方等様々ですが、その方の心身の状況に合わせて自分のペースで頑張っておられます。集中力、継続力を養うのに適したクラブです。

なお、年度末現在で、準2段が1名、初段が2名、1級1名、2級1名、3級10名、4～6級6名となっています。

② 心みがきの読書会

木曜日の10時30分から約1時間、こころの糧になる本を読んで上げています。平成22年度は52回の開催で、平均6～7名の方が参加されています。

※参考図書

- ・坂村真民「一日一言」
- ・NHK ラジオ深夜便「こころの時代」
- ・星野富弘「種蒔きもせず」
- ・北川八郎「繁栄の法則」
- ・北川八郎「あなたを苦から救うお釈迦さまのことば」

③ 茶道クラブ

第1と第3週の月曜日午後1時30分から、身体障害者裏千家茶道クラブ「もえぎ」のみなさんから、3人の方がお茶の手ほどきを受けておられ、平成23年度の実施回数は、12回となっています。

なお、館内のみなさんにもお茶をふるまっており、1回平均 24名～25名の入所者の方がお茶を飲みに来ておられ、茶道を通して礼儀作法や人との接し方を学ぶ良い機会となっています。

④ ビデオ映画鑑賞会

東館ができる前は、土・日曜日、東館ができた11月からは日曜日の午後1時30分から、「真和館ビデオ鑑賞会」と称して様々な映画をビデオで流し、楽しんでいただいています。

なお、ゴールデンウィーク、お盆、年末・年始には、「特別ビデオ鑑賞会」と称して、「男はつらいよ」や「釣りバカ日誌」を上映しています。

平成23年度は合計、94回上映し、平均7～8名の方が参加されています。

⑤ 自彊術

ラジオ体操が筋肉をやわらかくする体操であるなら、自彊術は針や灸のように体のポイントを刺激することにより呼吸・血液の流れを良くし、肩こり・腰通にはもちろんのこと様々な内臓疾患にも効果がある体操と言われています。

毎朝、最近では10名程度の方が参加され、薬のために動かない体をそれなりに動かしておられ、腰通がなくなったという方もおられます。

⑥ 歩こう(山歩き)会

歩こう会は雨の日もできるように原則パークドーム実施しています。22年度は、他の行事との重なりやインフルエンザ等のために、15回しか実施できていません。参加人数も減り、平均6名程度の方が参加されています。

山歩きについても、開設当初の14～5名の参加から、参加できる体力のある方が2名となってしまう、4月の始めに2回実施し、それ以来、開店休業の状態になっています。

⑦ 合唱クラブ

土・日曜日の11時15分から、童謡・唱歌・懐かしい演歌などを中心に、30分程度、11～12名程度の方が練習をされています。

平成22年度は98回の練習と誕生会や施設のイベントで歌たり、特別な行事として、桜見学を兼ねて人吉城址の犬童球溪の記念碑の前で「故郷の廃家・旅愁」を歌いました。

また、昨年に引続き、西原村社会福祉協議会主催の「のぎく祭り」で12名のみなさんが、日頃の練習の成果を披露しました。

⑧ 歌おう(カラオケ)会

東館ができる前には毎月1回カラオケボックスに行ってお歌っており、平成23年度は7月・8月・9月に1回ずつの3回実施しました。

11月からは、毎週土曜日の午後13:30分から、東館の学習室(視聴覚対応)で思い切り歌っていただいております、20回開催し、平均11名の方が出席しております。

※クラブ活動としては、この他に手芸クラブ、園芸クラブがあります。

(5)年間行事について

① 心みがきの講演会

入所者のみなさんに、こころの持ち方や対人関係を学んでいただくために、外部講師をお招きして、年4回の講演会を開催しています。

(7月27日)

演題 依存からの回復(体験発表)

講師 熊本ダルク施設長 田邊忠司先生
熊本ダルク相談支援員 庄司善恵先生

(10月18日)

演題 メンタルヘルスの自立訓練法

講師 日本赤十字社熊本健康管理センター
保健看護課長 牛島絹子先生

(12月14日)

演題 未来をみつめる

講師 満願寺窯主宰・著述業 北川八郎先生

(1月14日)

演題 認知症について

講師 益城病院 院長 犬飼邦明先生

② 季節の旅行・芝居・食事会

例年、春・夏・秋・冬の年に4回の旅行を実施しています。平成22年度春には、フラワーヒル菊池高原と山鹿灯籠民芸館へ日帰り旅行、夏には古代の里キャンプ村(阿蘇市一の宮)でキャンプ、秋は草枕温泉天水・滴水の大イチョウ(植木町)へ日帰り旅行、冬は島原・雲仙・小浜(長崎県)の一泊旅行を実施しました。

また、旅行に行くことができない方は、芝居見学と食事会(阿蘇ファームランド・阿蘇ミルク牧場・レストランまきば)のどちらかを選んでいただいています。

さらに、3月の始めには植木市、3月の終わりには花見で、人吉の青井神社・人吉城址・山江村丸岡公園まで足を伸ばしています。

③ 真和館スポーツ大会

春(4月23日)と秋(10月22日)の2回、入所者のみなさんに体を動かしていただくために、スポーツ大会を開催しています。

種目はグランドゴルフ、ダーツ、輪投げ、室内ボウリングなど元気な方から車椅子の方まで、できるだけ沢山の方に参加できるよう配慮しています。春の大会には29名、秋の大会には31名の方に参加いただきました。

なお、植木町の荒木観光ホテルで開催された大分・熊本スポーツ交流会には、グランドゴルフに12名の方が参加しました。

④ バーベキュー大会

スポーツ大会の後には、必ずバーベキュー大会を開催しています。平成22年度は、春・秋の2回開催しました。

⑤ のど自慢大会

平成22年度は、のど自慢大会を6月20日と12月12日の2回開催しました。それぞれ、19名と16名の方に日頃の練習の成果を披露していただきました。

⑥ 真和館なかよし祭り

12月24日、「真和館なかよし祭り」を開催しました。なかよし祭りは、真和館入所者にとってクリスマスや忘年会を兼ねた館内での年納めの最大の行事であります。職員と入所者が一緒になって歌ったり踊ったり、寸劇で楽しみ、最後は大抽選会で楽しい一日を過ごしました。

以前は「クリスマス会」や「真和館文化祭」として開催していましたが。

(6) 給食

給食は入所者が最も楽しみにされているものの一つであり、暮らしの質や精神の安定まで左右する大事なものであります。そのために、これまでも入所者の嗜好にあった食事が提供できるよう様々な工夫をしてきたところでもあります。

特に、行事食や外食の機会を増やしたり、外部から弁当を買って来たり、バ

ラエティ豊かな食生活になるよう心がけています。

また、ユニット代表の入所者と栄養士とで献立の検討やユニット内の入所者の様々な要望について、年に11回「メニュー検討委員会」を開催し、細かなところまで、詰めた検討を致しました。

平成21年度から取り入れた選択食も(朝食のパンとご飯の選択 3回、昼食1回)定着いたしました。今後、さらなる充実が必要と思われます。

なお、給食については、最近、とても美味しくなり、彩りや盛り合わせ方も見事になったという評価を入所者のみなさんからいただくようになりました。新しく入ってこられる入所者さんからも、真和館は、良い施設である。特に、食事が、美味しという話しもいただいています。

このように、食事が良くなったためか、入所者のみなさんも一段と落ち着かれ、処遇面にも好影響を与えています。

(アンケートの実施)

第1回 間食について

第2回 変りご飯について

第3回 リクエストメニューについて

※ アンケートは、年3回実施し、日頃のメニュー等に、具体的に生かすことができるアンケートになるよう工夫しています。

(行事食)

創立記念弁当(4月28日)

桃の節句(3月3日)

端午節句(5月5日)

七夕(7月7日)

土用の丑の日(7月19日)

お盆(8月15日)

敬老の日(9月21日)

お彼岸(9月26日)

ハロウィン(10月31日)

クリスマス(12月24日)

年越し(12月31日)

お節(1月1日)

七草粥(1月7日)

節分(2月3日)

お彼岸(3月18日)

お花見弁当(3月30日)

※ 誕生日には、各人の好きなメニューがリクエストできます。また、業者から購入した弁当の提供が2回、バーベキュー大会が2回ありました。

5)給食 栄養の状況

平均栄養所要量		特食		食事形態	
エネルギー	1,600 ~1,700kcal	糖尿食	9名	全粥	3名
たんぱく質	50g~60g	減塩食	1名	刻み食	5名
脂質	35g~45g	特別食	1名	一口大食	2名
				二度炊き食	7名

				ミキサー食	1名
--	--	--	--	-------	----

(7) 入浴

入浴は身体の清潔を保つとともに、心身のリラックスによる健康保持に欠かせないものであり、生活習慣の一部でもあります。ただ、入浴嫌いの人も多く、丁寧な誘導が必要となっています。

また、入所者の重度化とともに見守りが必要な方や介助浴者が増加傾向にあるため、平成 22 年度は入浴体制の確立に鋭意取り組んで参りました。

現在は、各浴場には職員をはりつけ、さらに、お風呂の外にも入浴責任者をはりつけ、安全性の向上と着替えや爪切りの徹底など整容にも配慮した体制を整えています。

入浴日	一般浴	月	火	木	金
	介助浴	月		木	

※ 介助浴は病院等の通院のため、入れない場合もあり、別の日に入浴することも多い。
また、尿や便失禁のためにシャワー浴や個浴で体を清めることも多い。

介助浴者 《男性》	31名(全介助 10名	一部介助 21名)
《女性》	9名(全介助 3名	一部介助 6名)

(9) 排泄

真和館の入所者は、アルコール依存症の方が多いためか、認知症状を呈する人が多く、しかも、多くの人が前期高齢者の段階から、尿や便失禁が多いような状況があります。

そのために、特定の人を定時に、トイレ誘導するなど努力をしていますが、なかなか成果が上がらず、廊下が尿で濡れていたり、便が落ちていたりすることが、度々あります。

2 個別支援計画

入所者のお一人おひとりの「思い」を大事にし、その目標に向かって「いきいきとした生活」を送っていただくために、個別支援計画を策定しています。

個別支援計画は、真和館独自の様式を使用し工夫を重ねていますが、平成 22 年度からは、各入所者のそれぞれの「半期の目標」と「今日の目標」を、部屋の中の見やすい所に張り出しています。

また、入所者の状態変化に即対応するために、①入所者の状態変化が起こってから、24 時間以内にケース会議を開催、②1 回の会議は 10 分以内に収める。③決められた対策を実施し、10 日以内に評価し、再検討する。対策は 14 日以内に標準化し、全員に周知し実施する。という取り組みも始めてみました。

3 アルコール依存症等に対する取り組み

真和館入所者の半分近くがアルコール依存症者であり、薬物依存症者を含めると半分以上の方が依存症者であります。従いまして、開設当初から飲酒は禁止とし、どのようにしたら飲まないでいられるか、飲ませないことができるかという観点から懸命に取り組んで参りました。

お陰様で、ここ2年ほどは落ち着いた状況が続いており、平成22年度は、女性入所者の方がお一人だけ、散歩中に飲酒されただけでありました。

しかし、今後、どんな方が入所されるか分かりませんので、油断大敵と心を引き締め、アルコール依存症者に対応して行きたいと思っています。

① 断酒の誓い

365日、毎朝8時50分から2回談話コーナーで15～16名程度の方が集まり、「断酒の誓い」を斉唱し、断酒の継続を誓っています。

② 真和館断酒会

真和館断酒会は、毎週水曜日午後1時30分から、30分程度、平成22年度は2階西食堂で52回開催し、平均13～14名方が出席されています。

「心の誓い」「断酒の誓い」の斉唱から始まり、その後、アルコール依存症に関する様々なテキストを全員で音読していただき、書かれていることについて、お一人おひとりから感想や体験談を述べていただいています。

最後に、全員で「連鎖の握手」をし、閉会しています。

※ 使用テキスト

- ・回復のためのミニガイド(NPO 法人 ASK)
- ・断酒会百人百話(松永哲夫)
- ・季刊 BE! (NPO 法人 ASK)
- ・酒のない人生をはじめの方法(アスク・ヒューマン・ケア)
- ・アルコール依存症を知る方法！回復のためのテキスト(NPO 法人 ASK)

4 地域生活への移行

真和館の当初の開設目的は、入所者の就労自立や地域生活を指すことでした。ところが、現実に入所された方は、半数近くの方がアルコール依存症者であり、アパートでの自立生活など夢の夢であり、どのように飲酒させないかが、一番の課題となりました。

このような中、障害を持ちながらも何とか元気な方を、地域生活や専門施設に繋げることができないかこれまで努力をして参りました。

平成20年度に7名の方が地域生活に戻られ、その後は、対象となられる方がほとんど、おられなくなり、平成21年度に引続き、平成22年度も1名という低調な状況が続いています。

自立に繋がる専門施設(あかねの里)への転所も1名だけでした。退所者1

3名のうち11名は、障害の重度化や病気が重くなったり、死亡によるものであります。

① 作業訓練

就労するにあたり、継続力を養ってもらうために、弁当を10～20個まとめて一度に運ぶための紙袋貼りの作業に、常時4～5人の方が従事されています。

一日の作業時間は、各人の能力や希望に応じ2～6時間の範囲内になっています。実態は、就労訓練というよりは、本人の精神安定のための作業訓練であります。

② 調理訓練

自立をめざす人や調理が好きな6人の方に、簡単に調理ができるメニューを中心に平成22年度は11回の調理訓練を実施しました。

また、施設のイベント時のおやつ作りをしていただく場合もあり、みなさんに大変喜んでいただいています。

③ 買い物

大津町にあるジャスコやダイソー、益城町にあるスーパーキッドに毎月第1火曜日、第3火曜日の2回、職員付き添いの下で、買い物に行っています。平成22年度は23回(2月はインフルエンザの関係で実施せず)実施し、1回平均22名の方が参加されました。

第2・第4火曜日は、「ことづけ」と称して入所者のみなさんが希望されるものを職員が買って来ています。

また、職員が個人的に頼まれて、通勤途上などに買い物をしてくる場合もあります。

さらに、寄り添いショッピングと称して、通常の買い物に参加できない方や高額な衣類や電気製品等を買われる場合は、職員同伴で随時、買い物に行くこともできます。

なお、アルコール依存症の方でアルコール飲みたさに、イライラされている時に、その解消策として、職員と一緒に映画館や買い物に行き、気を紛らしていただくこともあります。

入所者のかなりの方が、金銭管理ができなかったり、へたな方々なので、買い物の機会を捉え、金銭管理の仕方を学んでいただくことも自立に向けての大事な取り組みの一つであります。

5 安全で安心な生活

(1) 健康管理

真和館に入所されている方は、精神障害者やアルコール依存症者の方々が大部分であり、その上、年齢も高くなってきておられます。そのために、高血

庄・糖尿病あるいは認知症・眠れない方など様々な病気あるいは体調が思わしくない方が沢山おられます。従って、日頃の健康管理や心身の変化に、注意深く対応しなければなりません。

健康診断にも力を入れた取り組みをしており、春・秋の2回、日赤健康管理センターの健康診断を受け、その結果を主治医に報告するとともに、看護師と栄養士がデータに基づき個別に健康指導にあつたっています。

(2) 感染症対策

平成22年度も、21年度の春からの新型インフルエンザ問題が尾を引き、引き続き、感染症対策が重要な課題となりました。

予防接種あるいは買い物やレクリエーションの自粛の効果なのか分かりませんが、今年も、幸いにも、インフルエンザの罹患者は一人も出ませんでした。

(3) 入院・通院

真和館の入所者は、心や体に障害をお持ちの方々のため、入院や通院が多く、その業務に忙殺されています。

なお、救護施設の場合は、自分で通院というのが原則ですが、真和館は通院される全ての方を職員が付き添い、送迎しています。

6)入院の状況

(22年度延べ人数)

入院科	回数
精神科系	18
内科系	10
外科系	10
合計	38

※ 入院の実人員は23人

7)通院の状況

(22年度延べ人数)

診療科	人数	診療科	人数
精神科	421	外科・脳神経外科	25
皮膚科	41	リハビリ	8
整形外科	55	救急外来	1
形成外科	12	循環器	11
眼科	45	消化器科	20
歯科・口腔外科	198	心臓血管外科	1
内科	180	神経内科	0
婦人科	1	泌尿器科	2
耳鼻科	19	大腸肛門科	24
		合計	1064

(4) 苦情処理

入所者の苦情については、「投書箱」「苦情申し出窓口」を設置するとともに、「苦情解決第三者委員」を設置し、制度に則った解決に努めています。

また、毎月1回、月初めに、施設長が直接入所者のみなさんから苦情を聞き、その場で、解決のための話し合いをする「対話集会」を開催しています。

さらに、「明日へ向かって」という入所者の「日頃の思い」を書いていたという文集を真和館創立記念日に発刊していますが、その中にある苦情についても拾い上げ、丁寧に対応しています。

《苦情の種類》

施設	8
食事	10
入浴	6
金銭	0
職員	4
対人	9
その他	7
合計	44

《苦情の申し出方法》

直接	1
投書	9
対話集会	30
文集	2
手紙	2
合計	44

《苦情申し出者数》

7件	1
5件	1
4件	1
3件	4
2件	5
1件	2
不明	4
合計	14

(5) 防災訓練

真和館は新しい施設であるため消火器を始め、スプリンクラー等の消防設備も充実しており、避難路の確保も問題ありません。

月初めには必ず消防訓練(年12回)を実施しており、平成22年度も引続き、職員配置が薄い夜間を想定した避難訓練を実施しました。その結果、12回のうち9回が夜間訓練を想定した訓練となっています。

なお、最近では自主防災組織のリーダーの方が、避難訓練を手伝っていただく姿も見られるようになりました。

(6) リスク管理

施設運営の中で介護リスクは大きな比重を占めています。平成22年度はアクシデント59件(H21年度83件)、インシデント28件(H21年度52件)の合計87件(H21年度135件・20年度112件・19年度69件)となっています。

アクシデント59件のうちの48件は、転倒事故であり、その他は嚙下のご詰り3件、味噌汁での火傷、入浴でのぼせ、館内喫煙、誤薬、飲酒、人がいるのに鍵をかけ閉じ込めた、食事に異物混入、温冷庫からの食事取出時にひっくり返し他の食事まで汚染させた事例がそれぞれ、1件ずつありました。

転倒事故の大部分は、心身能力の低下による転倒と睡眠薬服用のための朦朧とした中での転倒事故であります。これまでのこぼした水で滑ったという物理的な話とは違い、精神障害者やアルコール依存症者の方が多施設に架された大変、重い課題であり、お一人お一人の心身の状況を十分把握し、お一人お一人に対する個別の対策を立てる以外にないと思われれます。

服薬事故は21年度の11件(20年度6件)から1件へ急減しています。インシデント28件のうち22件は、薬のセットミスであります。これらの数字から言えることは、服薬管理体制が確立したことにより、薬のセットミスを発見できるシス

テムとなり、誤薬が防げていると判断できます(最近はセットミスも急減しています)。

のど詰め事故に対しては、調理での工夫は勿論のこと、昼食・夕食前に嚥下体操を取り入れ、のど詰めが起こらないように予防に取り組むとともに、全職員(施設長・副施設長を除く)を日赤救急員養成講習会(3日間)に受講させています。

6 開かれた施設をめざして

(1) 地域との交流

真和館は鳥子地区のご支援ご協力のもと、平成22年度も引続き新年会、ドンドヤ、野焼き、地域清掃(春・夏の区役)、神社の例大祭等の行事に参加させていただいています。

入所者のみなさんも朝夕散歩されていますが、特に、トラブルもなく、地域のみなさんに温かく受け入れていただいています。

また、サツマイモ、米、もち米、あるいは野菜など地域の特産物をいただく機会も多くなり、心から感謝しているところです。

平成22年8月8日(日)には、にしはら保育園の園児と保護者のみなさん並びに地域の子供さんを施設にお招きし、「第4回 ふれあい交流会」を盛大に開催することができました。今年も、昨年に引き続き、メインの出し物としては、「寿崎亜似さんの熊本弁で語る民話」、さらには、タコ・タイゲーム、バナナの叩き売り、輪投げ、お菓子のつかみ取り、もえぎの茶席、クイズ、抽選会など、大人から子供まで楽しんでいただきました。その結果、園児45名、保護者や地域の方42名という多数の方に参加いただきました。

なお、「心みがきの講演会」、「マジックショー」にも、地域の方にも案内状をさし上げ参加いただきました。

これらの催しを通し、真和館が徐々に地域の中に溶け込んでいっているのが、実感されるようになって参りました。

(2) ボランティアとの交流

平成23年度は真和館開設から5年目になり、ボランティアの方々にも若干ではありますが、来訪いただくようになりました。

特に、「身体障害者茶道クラブ裏千家もえぎ」のみなさんは、月に2回茶道の指導に来ていただくだけでなく、「ふれあい交流会」にもいつも来ていただき、お客様をお茶で接待していただいています。

また、西原村河原の「笑顔のスタジオ『なかチャン』」のグループと6月20日、12月12日にカラオケ大会、12月20日に「もえぎふれあいカラオケ大会」を開催しました。

7月4日(日)に日赤熊本病院高毛禮敏行様の「マジックショー」、12月17日(金)琴伝流大正琴「肥後の会」、2月9日(水)には「富合にわか愛好会」が

来訪され、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

(3) ホームページ

真和館の紹介を九州地区救護施設協議会及び熊本県救護施設協議会のホームページに掲載するとともに、真和館独自のホームページも開設しています。

ただ、ホームページまでは、なかなか、手が廻らず、メンテナンス不足というのが実態であります。

しかし、開かれた施設という理念を掲げていますので、内外に施設運営に関する基本的な態度を鮮明にする必要があります。そこで、施設概要・施設案内は勿論のこと、基本理念、クラブ活動、イベント、年間支援計画、事業計画、事業報告、決算報告、QC活動、経営計画、研修計画、広報誌など施設運営に関する様々な情報を掲載しています。

なお、広島県の救護施設の施設長さんから、インターネットで見えていたら真和館でやっている取り組みが自分のめざす方向が同じなので、職員と一緒に視察に来たいというお話を東京で開催された会議の折にいただきました。

また、入所をご希望されているご家族の方の中には、ホームページで予備知識を得た上で、お訪ねになる場合もあります。

(4) 真和館だより「風の彩り」の発行

平成22年度も、真和館だより「風の彩り」を2回(7月1日、1月1日)に発行することができました。水準の高いものは発行できませんが、真和館の現状を少しでも知っていただくことと、アルコール依存症について、世の人々に、少しでも目を向けていただけるような広報誌にして行きたいと思っています。

6 運営体制の強化

(1) 職員会議の充実

真和館は交代勤務のために意思統一が難しい施設特有の問題を解決するために、宿直明け及び調理に従事している職員を除き、毎週水曜日に全職員意に出席してもらい職員会議を開催しています。

平成22年度は、45回の職員会議を開き、施設長やそれぞれの担当者から各種方針の説明や提案あるいは連絡調整の場として大事な役割を果たしています。

また、水曜日は職員が揃っていますので、各種会議や職員研修会も開催しやすく、大きな行事を開催するにも都合の良い日になっています。

なお、真和館には、係長以上の役職員で構成される幹部会議があり、平成23年度は、7回開催されました。幹部会議では、理事会提出案件の検討、重要物品や高額商品の購入の際の検討や納入業者の決定を行っています。

(2) QC 活動

効率的な施設運営と人づくりのため、平成19年度から QC 活動に取り組み始めました。その中で、平成20年度、21年度にかけて取り組んだ「服薬管理体制の確立」は、薬の飲み損ないや誤薬を防ぐのに多大の貢献を致しました。

また、調理部門では、毎回、QC 活動に真剣に取り組んでいただき何時も、立派な報告をしていただいています。21年度に取り組んだ「配膳・作業ミスゼロ」には、22年度の業務改善に大きな貢献をしました。

平成22年度は、8月から3月にかけて、改善サポートオフィス川久保 川久保俊朗先生のご指導の下、第4期の真和館 QC 活動に取り組み、その中の「入所者の状態に変化に即対応」は、業務改善に大きく貢献しそうな感じがしています。そこで、折角 QC で検討され発表されたものを実際の業務に生かし、定着させるために、第4期の取り組みからは、川久保先生の提案を受け、「QC 現場定着発表会」を新たに、開催することになりました。

なお、真和館は(財)日本科学技術連盟 QC サークル中部九州地区の幹事として参加させていただいています。

平成 22 年度テーマ一覧

- 入所者の状態変化に即対応
- 情報伝達を充実化させよう
- 入所者の情報の共有化
- 衣類倉庫の整理
- 在庫管理を徹底する

(3) 職員研修の充実

真和館は新設の施設であるため、必要とする経験やノウハウの蓄積も、まだまだであります。そこで、職員を外部研修に数多く出すことにしています。

大小様々な研修に平成18年度は、35人、平成19年度は86人、平成20年度は91人、平成21年度は115人、平成22年度は98人派遣しています。

ここで、他の施設ではあまり取り組まれていない、真和館独自の特筆すべき派遣研修について報告致します。

- ① 入所者の救急の場合に備え、「赤十字救急員養成講習(3日間)」に職員を派遣し、救急員としての認定をほぼ、全ての職員が受けています。
- ② 火災に関する職員の知識を増すために、男子職員全員の防災管理者資格取得を目指しています。現在、5名の職員が有資格者になっています。
- ③ 平成19年度から毎年、真和館と同じ救護施設(佐賀県しみず園)に、1週間職員を派遣しています。
- ④ 平成22年度から新たに、独立行政法人国立病院機構南九州病院に、1週間職員を派遣し、介護技術の研修を受けています。
- ⑤ 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター教育研修部アルコール・薬物関連問題研修会(3日間)に、2人の職員を参加させました。

また、施設内研修として、平成 22 年度の前半には、入所者のみなさんの協力を得て、職員の介護技術の向上のために、「介護技術勉強会」を 14 回実施しました。

この他の施設内研修としては、CD で SST(生活技能訓練)の勉強会を 7 回実施しました。

OJT の取り組みについては、毎年度 2 回、施設長と職員の個人面接をし、職員の仕事に対する取り組み姿勢や悩みについて聞き、施設長がサジェスションをして来ました。ただ、効果が疑わしかったので、平成 22 年度からは、一人ひとりの職員に業務遂行能力に関する自己分析をしてもらい、それにもとづき上司と一緒に能力向上のための話し合い、OJT への取り組みに少しずつ変えて行くことにしました。

さらに、リスク管理の事例研究を通し、介護職員として何が欠けているのか、アクシデント・インシデントが起こるのか、全員に考えてもらい、それを文書化し、職員それぞれが、介護職員としてどういう心構えで、どういう行動をすべきか、反省をしてもらい、事故防止は勿論のこと、仕事に取り組む姿勢を正してもらう取り組みを始めました。

なお、施設長が、仕事に取り組む姿勢や真和館の方針等を文章にしたメッセージ(職員のみなさんへ一言メッセージ)を、毎月の給与袋に入れて職員に読んでもらっています。この取り組みも効果がどれだけあるのか、疑わしいところではありますが、「継続は力なり」という言葉を信じ、初給料以来、平成 23 年度末まで 60 回メッセージを出し続けてきました。

7 真和館改修及び増築工事

真和館改修及び増築工事については、平成 20 年 10 月策定の「真和館中期経営計画」で、改修及び増築計画が盛り込まれ、平成 22 年 3 月 20 日(土)の理事会で、予算が承認され、熊本県知事から平成 22 年 4 月 13 日保護施設変更認可をいただくことができました。

平成 22 年 7 月 1 日から工事に着工し、思わぬ杭打ち工事や追加工事(自動ドア・放送設備)が必要となり、補正予算をお願いしたりのハプニングは有りましたが、事故もなく無事に 10 月 30 日に工事が竣工し、11 月 5 日には竣工式を執り行うことができました。

お蔭様で元々の目的でありました狭くて効率が悪いという職員の働く場、バックヤードの環境改善という目的は、当初の狙い通り達成できました。ただ、入所者のために増築した 2 回部分の学習室、図書室の利用は、これからという状況であります。

①東館の床面積

事務室(1F)	52、50㎡(15、9坪)
施設長室(1F)	20、12㎡(6、1坪)

ロッカー一室(1F)	12,00m ² (3,6坪)
学習室(2F)	70,50m ² (21,4坪)
図書室(2F)	35,50m ² (10,8坪)
その他	33,76m ² (10,2坪)

② 改修(本館)部分の床面積

介護職員室	46,25m ² (14,0坪)
医務室	18,05m ² (5,5坪)
食品庫(備蓄用)	4,96m ² (1,5坪)
リネン室(増築分)	5,64m ² (1,7坪)
渡り廊下の自動化	

※ 建物の面積:本館1605,510m²(486,5坪)、東館224,375m²(68,0坪)、合計1829,885m²(554,5坪)となりました。

敷地面積:9548m²(2,893坪)

③ 建築経費

東館(増築)	59,148千円
本館改修	2,889千円
合計	62,037千円

理事会資料

1 平成 22 年度事業報告について

とき：平成 23 年 5 月 27 日 16 時 30 分～

場所：料亭「はらぐち」水前寺

社会福祉法人 致知会
救護施設 真和館